

## 『明解 歴史総合図説 シンフォニア』を活用した 授業実践について

京華中学・高等学校 西村 博樹 (にしむら・ひろき)

### — 使用教材 —

- 『明解 歴史総合図説 シンフォニア』
- 『明解 歴史総合』
- 『明解 歴史総合ノート』



### 1 はじめに

新科目「歴史総合」が始まって2年目を迎えた。1年を経て、授業の方向性が定まりつつも、試行錯誤が依然として続いているのではないだろうか。何よりも、先生方の抱える悩みを多方面で聞く。教科書の内容をすべて終わらせることができない、専門外の単元になると授業展開が難しくなる…などなど。私自身、日本史を中心に教えてきたので、専門ではない分野を教えることは難しい。しかしながら、資料集『明解 歴史総合図説 シンフォニア』(以下、『シンフォニア』) や『明解 歴史総合ノート』(以下、『歴史総合ノート』) などの教材、デジタル教材が豊富な「指導書 Web サポート」を活用していくことで、私の抱える悩みは減っていった。そして、扱うコンテンツが多様になったことで、授業はより充実したものになっていった。以上の教材等を活用した授業実践を紹介することで、少しでも先生方の参考になれば、これに勝る喜びはない。

### 2 授業の前提を生徒と共有する

#### 2-1 授業の目的と目標

初回の授業で生徒と「歴史総合」のシラバスの内容を共有した。以下はシラバスの一部を抜粋したものである。

#### 【目的】

- ・ 情報（知識）活用や思考力、分析力、表現力を身につける。
- ・ 授業時の課題に取り組む過程で、他者と意見を交わしながらよりよい解を生み出していくことで、コミュニケーション力を身につける。

#### 【目標】

- ・ 教科書、資料集、Chromebookを駆使して、知識を獲得し、情報収集を行うことができる。
- ・ 課題を分析、思考し、粘り強く取り組み、解決することができる。
- ・ 与えられた文章を読解し、それに関する問いに対して記述することができる。

- ・ 他者の意見に耳を傾け、自分の意見をしっかりと相手に伝えることができる。
- ・ 主体的に課題の解決に取り組み、他者と協力・議論することで、よりよい解を発見することができる。
- ・ 授業時の自分の取り組みについて振り返り、次時につなげることができる。

これらシラバスの【目的】や【目標】に応じて、授業内容は変化する。例えば記述力を掲げるならば、記述課題を設定する必要があるし、表現力を掲げるならば、プレゼンを繰り返し実施する授業が想定される。授業でどのような力を身につけてほしいのか、というメッセージを基に授業構成、学習教材が定まってくる。

表1は【目的】や【目標】にある各コンピテンシーと、それぞれの到達度を表したルーブリックである(本校の建学の精神や校訓から抽出したフィロソフィーを基に、中央大学のルーブリックを参考に作成)。「歴史総合」の授業を通して生徒にどのような力を身につけてほしいのかという前提があれば、複数の担当者で授業を担当することがあっても授業内容はぶれない。そのため、生徒は意識して各コンピテンシーの獲得に挑戦できる。また、生徒は学期ごとに到達度を自己評価し、みずからの成長につなげることも可能になる。

#### 2-2 授業で扱う単元

昨年度は、すべてのクラスで同一のスライドやワークシートを利用し、資料の読み取りやグループワーク、発表を重視して授業を進めていった。すべての単元を授業に落とし込もうとすると、ルーブリックに記載したコンピテンシーの習得が難しくなる可能性もあったため、いくつかの単元をピックアップして、1年間で26枚ほどのワークシートを使用した。

今年度は、探究科目、そしてその先の大学入試への接続を重視し、『歴史総合ノート』を軸に、コミュニケーション力のみならず、知識の習得をも追求している。『歴

ルーブリック	定義	5	3	1
知識・技能		近現代の歴史を十分に理解している。資料の活用を十分に獲得している。	近現代の歴史をおおむね理解している。資料の活用を十分に獲得している。	近現代の歴史の理解に努力を要する。資料の活用を十分に獲得している。
<b>組織的行動力</b>				
主体性	物事に対して自分の意志・判断で責任を持って行動する。	多様性（文化・習慣・価値観等）を有する集団の中でも臆することなく物事に対して自分の意志・判断で責任を持って行動し、その行動に工夫・独自性が見える。	物事に対して自分の意志・判断で責任を持って行動している。	誰かに指示されたことのみ行っている。
協働性	共通の目標を達成するためにお互いの考えを尊重し、信頼関係を築くような行動をとる。	多様性（文化・習慣・価値観等）を有する集団の中でも臆することなく、工夫をしながら積極的に作業、行動し、共通の目標を達成するためにお互いを尊重し、信頼関係を構築・維持できる。	チームでの作業、行動をするとき、共通の目標を達成するため自分から行動し、さらにお互いの考えを尊重し、信頼関係を築くような行動をとる。	チームで作業できるが、目標を達成するために自分からは行動しない。
<b>コミュニケーション力</b>				
傾聴力	他人の意見を聞き、正しく理解し、尊重する。	自分と異なる意見にも冷静に耳を傾けて、言葉の意味だけでなく相手の真意も理解し尊重することができる。	自分と異なる意見にも冷静に耳を傾けて、言葉の意味だけでなく相手の真意も理解しようとする。	相手の意見を聞くことはできるが、言葉の意味を十分に理解することができない。
読解力	記述された内容を正しく理解する。	記述された内容を十分理解したうえで、自分の知識、経験に照らし合わせて考え、その内容をより発展させ自分の問題として考えることができる。	記述された内容を十分理解したうえで、自分の知識、経験に照らし合わせて考えようとする。	語彙力不足のため、記述された内容がある程度しか理解できない。
記述力	正しい文章で他人が理解できるように記述する。	正しい文章で、背景の多様性（文化・習慣・価値観等）に起因して異なる意見を持つ他者でも十分理解できる記述となるよう秀でた工夫をしている。	正しい文章で、自分の真意が相手に十分伝わるように記述することができる。	稚拙な文章であるが、深刻な誤りはない。
発信力	どのような場でも臆することなく自分の考えを発信でき、他者の共感を引き出せる。	多様な人々へ、熱意とストーリーを持って訴に落ちる形で説得力ある発信を行い、共感を得ることができる。	ICTを活用したり、データや事例を紹介しながら、自分の意見や考えを相手に伝えることができる。	自分の意見や考えを、集団の前で話すことができる。
表現力	説得力を持つ言葉と話術で、聴き手に表現する。	言葉と話術（姿勢・ジェスチャー・アイコンタクト・声の表現）に説得力があり、プレゼンテーションの効果を増している。聴衆の感動を得ている。	言葉と話術（姿勢・ジェスチャー・アイコンタクト・声の表現）に説得力があり、プレゼンテーションの効果をおおそそ支えている。	言葉と話術（姿勢・ジェスチャー・アイコンタクト・声の表現）が平凡であり、プレゼンテーションの効果は最小限しか得ていない。
議論力	議論の目標を設定し、それに合わせて議論を展開する。	議論の目標を設定し、それに合わせて、背景の多様性（文化・習慣・価値観等）に起因して異なる意見を持つ相手とも論理的に議論を展開し相互理解を得ている。	議論の目標を設定し、それに合わせて、自分と異なる意見を持つ相手とも論理的に議論を展開している。	議論の目標を設定し、それに合わせて議論を展開しようとしているが論理的ではない。
<b>課題解決力</b>				
課題発見力	現状と目標（あるべき姿）を把握し、その間にあるギャップの中から、解決すべき課題を見つけ出す。	絶えず変化し多様性を増す環境の中で現状と目標を把握し、その間にあるギャップの中から、随時解決すべき課題を見つけ出し、優先順位付けができています。	与えられた課題だけでなく、現状と目標を把握し、そのギャップを理解し、その中から解決すべき問題点を見つけ出せる。	与えられた課題を正しく理解できている。
課題分析力	課題の因果関係を理解し、真の原因（本質）を見いだす。	絶えず変化し多様性を増す環境の中で課題の因果関係を理解し、かつ、本質を見いだしたうえで、解決の方向性を随時認識している。	課題の因果関係を理解し、本質を見いだしている。	課題の因果関係や、本質を理解しようとしている。
課題思考力	複雑な事象の本質を整理し、構造化（誰が見ても分かりやすく）できる。論理的に自分の意見や手順を構築・展開できる。	絶えず変化し多様性を増す環境の中でより複雑な事象を整理し、随時構造化できる。また事象を多面的にとらえ、意見や手順を論理的に展開し、相手を納得させることができる。	複雑な事象を整理し、構造化できる。自分の意見や手順を論理的に展開できる。	複雑な事象を整理し、構造化しようとしているが、途中で諦めてしまう。
継続力	困難な状況に対し、柔軟な対処ができ、ポジティブな行動を継続する。	絶えず変化し多様性を増す環境の中でも新しい目標を求めており、自分で設定してそれを達成しようと努力する。失敗しても効果的な改善を行い、諦めず繰り返し挑戦する。	ふだんから新しい目標を求めており、自分で設定してそれを達成しようとする。そのための道筋を立て、改善のための工夫を怠らない。	目標が与えられるとそれを達成しようと努力するが、途中で諦めてしまう。
検証力	計画して実行した結果を正しく評価し、計画の見直しや次期計画への反映を行う。	絶えず変化し多様性を増す環境の中で結果を正しく多面的に評価し、計画の見直しや次期計画への反映を随時行っている。	結果を正しく評価し、計画の見直しや次期計画への反映を行っている。	結果を一通り検証しているが不十分である。

表1 「歴史総合」で用いているルーブリック

『歴史総合ノート』からは、**図1**の27の単元をピックアップした。

**図1**の通り、史・資料の読み取り方を初めに扱い、その後、市民革命や産業革命、国民国家や帝国主義政策が現在にどのような課題を残しているのか考察し、開国により世界市場に組み込まれた日本、そして列強の帝国主義政策の中で行われた日本の急激な近代化、大衆を動員した第一次世界大戦、強制的または自主的な形式をとりながら多くの人々が動員された第二次世界大戦、大衆に浸透するグローバル化の功罪について扱う。最終的にはレポートや小論文を自身が興味を持ったテーマを基に書き上げるという流れである。

### 3 授業を組み立てる

#### 3-1 授業の進め方

『歴史総合ノート』の空欄を『明解 歴史総合』（以下、教科書）や『シンフォニア』、検索用にChromebookを利用しながら埋めていく（次頁**図2**）。その後、生徒に解答を促しながら、流れや事象の因果関係を解説していく。その際、教科書巻末の「歴史総合 頻出用語解説」を利用して、例えば「批准」という言葉はどのような意味か、「自由貿易」とは何か、その意味を確認しながら解説を進

めている。「チャレンジ」や「説明」は論述演習の箇所でもあり、ペアワークでお互いに解答を共有した後に、発表をしてもらうことがある。また、『歴史総合ノート』の「ノート欄」に問いを記入してもらい、解答を考えてもらっている。

「列強の中国進出と日露戦争」の単元では、「なぜ日本はロシアに勝利することができたのか？」という発問をし、それについて調べ、グループで共有し、発表するところから授業を始めた。そしてもう一つ、「もしも日本がロシアに敗北していたら、その後、日本はどのようになっていたのだろうか」という問いを単元の最後に設定することで、学びを深めていった。すべての単元ではないが、「NHK 高校講座 歴史総合」を視聴するときもある。『歴史総合ノート』は、単元ごとに回収してA～C

#### 1部

- 1章 歴史と私たち
- 2章 歴史の特質と資料

#### 2部

- イギリスの革命とアメリカの独立
- フランス革命～ヨーロッパ近代の幕開け
- フランス革命の影響と国民意識の芽生え
- 産業革命で変わる社会
- イギリスの繁栄と国際分業体制
- ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争
- 黒船の来航と日本の対応
- 新体制の模索と江戸幕府の滅亡
- 日本と清の近代化と日清戦争
- 列強の中国進出と日露戦争

#### 3部

- 総力戦となった第一次世界大戦
- 世界恐慌が与えた影響
- ファシズムの台頭と拡大
- 政党政治の断絶と満洲事変
- 日中戦争の始まり
- 第二次世界大戦の展開
- 戦局の悪化と被害の拡大
- 第二次世界大戦の終結とその惨禍
- 戦後の新たな国際秩序
- 冷戦の始まり
- 日本撤退後の東アジア
- 日本の改革と独立の回復

#### 4部

- アメリカ・ソ連の緊張と緩和
- 冷戦下における日本の復興
- 技能を磨く⑤ レポートや小論文の書き方

図1 2023年度に取り上げる27単元





人間は、政治的および民族的なアイデンティティを持ちつつも、さまざまな差別を越えることができる可能性があります。人々は、自分たちのアイデンティティや所属に誇りを持ち、それが彼らの文化や歴史と結びついています。しかし、それは他の人々を尊重し、包括的な社会を築くための障壁とはなるべきではありません。差別は、人々の個人的な特徴や所属に基づいて、不当に優遇または軽視されることです。このような差別は、人間の尊厳や平等を侵害し、社会の健全な発展を妨げる可能性があります。しかし、人間は社会的進歩と共に成長する生き物であり、個人の意識や教育の努力によって差別を乗り越えることができます。

このプロセスには、教育や対話が重要な役割を果たします。教育は、人々が異なる文化やバックグラウンドを理解し、共感する能力を向上させるための重要な手段です。対話は、異なる意見や経験を交換し、相互理解を深める機会を提供します。政治的および民族的なアイデンティティを持つ人々が、対話を通じて互いの視点を理解し合い、共通の目標を見つけることで、差別を乗り越えることができます。

また、法的な枠組みや人権の保護も重要です。法律は、差別的な行為や構造を防止し、被害者を守るための基盤を提供します。人権の保護と平等な機会へのアクセスを確保することは、多様な社会の実現に不可欠です。

したがって、人間は政治的および民族的なアイデンティティを維持しつつも、差別を越えることができる可能性を持っています。教育、対話、法的な枠組み、人権の保護などの手段を通じて、共生と包括性を促進することが重要です。

### 資料2 問いに対する「ChatGPT」の解答

私は、政治的・民族的アイデンティティを維持しつつ、さまざまな差別を越えることは不可能であると考えます。なぜなら、それが可能であるならば、既に差別問題は無くなっているであろうと思うし、人や国の数だけ、それぞれの考え方や、歴史があるからだ。そこで私は差別を越えるのに必要だと思うのは世界規模での教育改革であると考えます。なぜならば現在、自分の価値観を持って生きている大人の考え方や差別感情を変えることは不可能に近いと思うが、まだ成長途中で価値観が決まらないうちの子どものうち、差別意識を無くせると考えたからだ。これを一国では無く、世界全体で行うことが出来たならば、世界中で育つ子ども達から差別意識は無くなって少しずつ世界から差別は無くなると思う。これを実現する為にはどの国にも属さない中立的で独立した教育機関を作り、子どもたちに教えていくことが必要だと考える。

### 資料3 生徒の解答例

くなるのではないかと、という意見もあった（資料3）。授業では、全体にフィードバックを行い、国境を取り払ったときに起こるメリットとデメリット、その実現可能性について生徒に考えてもらった。

### 3-4 コミュニケーションスキルをどのように高めていくか

なお、シラバスではコミュニケーション力を身につけるとうたっているが、毎時間グループワークの時間をとることは難しい。グループワークについては、総合的な探究の時間、あるいは他科目におけるグループコミュニケーションの時間と一体に考えていかなければならない。もしも生徒が今まで十分にグループワークに取り組んできていなければ、急にテーブルを囲んでディスカッションをするのは難しい。授業全体・学校全体でコンピテンシーを共有し、各授業でグループワークの時間を作っていくことが必要であろう。当授業では総合的な探究の授業で設定したグラドルール（個別に意見を発表するときは、他人の意見を否定しないなど）を再度共有してから話し合いに入った。また、話し合いとは何かを理解したうえでグループワークに入るようにしている（下記4点）。

1. 話し合いとは、人々が身近な他者とともに働いたり、学んだり、暮らしていくために、
  2. 自分が抱く意見や、お互いに伝え合い（＝対話）、
  3. 他者との「意見の分かれ道」を探り合い、メリット・デメリットを考え、
  4. 自分たちで納得感のある決断を行い、ともに前に進むこと（＝決断）。
- （中原淳（2022）『話し合いの作法』PHPビジネス新書）

## 4 おわりに—今後に向けて

27単元に絞ると、その他の単元に触れることはでき



写真1 グループワークの様子

「日露戦争でなぜ日本は勝利したのか」について自分の意見を発表し、お互いに共有する。その後グループの意見をまとめていく。4人になると、テーブルの進行がスムーズにいくケースが多い。



写真2 グループワーク後のプレゼンの様子

できるだけ多くの生徒がプレゼンできるように、まんべんなく指名をしていく。

ないが、1つの単元を1コマで終わらせなければならぬという切迫感はなく、授業展開に余裕を持つことができる。例えば、先に挙げた『シンフォニア』のMOREで、ロシア船がラッコの毛皮を求めたという話から、ラッコ肉の話に

なり、ほかの動物の肉についても話が及び、私が家族と旅行したモンゴルで食した子羊の肉の話にまで展開した。また、単元としては扱っていないが、清の繁栄で扱うモンゴル人の文化、そして『シンフォニア』p. 2～3で16世紀ごろの世界を確認し、世界の一体化の始まりを理解していくことにつながった。そこには「必然の寄り道」があり、生徒の興味・関心をより一層高めていくことができると考えている。

コロナ禍で縮んだ世界をどうにか広げていこう、と思う。コミュニティーに属することで人は周囲を俯瞰し、みずからを知る。食わず嫌いをせずに多くのコミュニティーへと足を一歩踏み出してもらいたい。その主体性を学校というコミュニティー、「歴史総合」という授業で醸成したい。また、【目的】や【目標】達成のために、どのような課題を設定するかは、目の前の生徒に応じて、おのずとその方法も変わる。「歴史総合」は始まったばかりであるから、こうしなければならないといった型を取り払って、目の前の生徒たちにどのようなコンピテンシーを身につけてほしいか、それを基に作成した【目的】や【目標】を達成するための方策を考え続けなければならない。教材をどのように料理するかは、われわれ教員に委ねられている。その際の調理方法は、教員自身の生き方やフィロソフィーによるところが大きいのではないだろうか。

### 〈参考文献〉

- ・村村仁司(1994)『近代性の構造「企て」から「試み」へ』講談社選書メチエ
- ・中原淳(2022)『話し合いの作法』PHPビジネス新書

本授業で紹介した補足ワークシートは帝国書院ウェブサイトをご覧ください。

